

# 新潟市防災会議資料

---

平成27年3月26日  
信濃川下流河川事務所

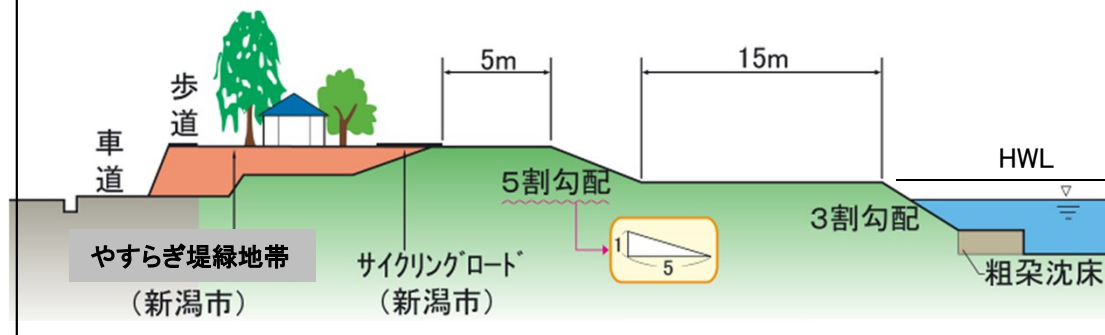
# やすらぎ堤の整備 【新光町築堤: 工事实施中、耐震工事: 準備中】

平成27年3月1日現在

- 「やすらぎ堤」の整備を推進（現在の堤防整備率：約80%）するとともに、水都新潟の水辺利用が一層進むような取り組みについて研究していきます。
- 「やすらぎ堤」の耐震工事は、平成27年度の完了を目指しており、液状化で潰れない堤防になります。

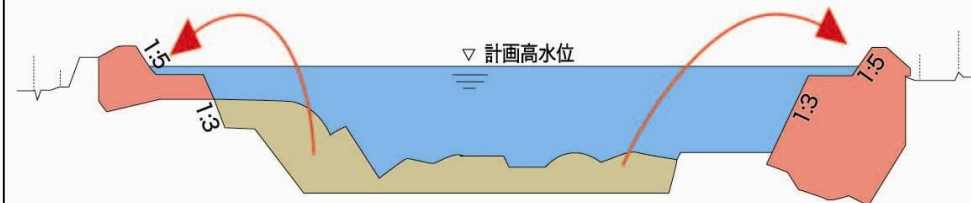


## ○やすらぎ堤断面イメージ



## ○河道掘削土砂による築堤(整備断面図)

洪水流量を安全に流すため、河道の掘削を進めるとともに発生した残土を築堤材として有効に利用している。



## 設計の考え方

- ①信濃川本川下流堤防（やすらぎ堤）では、基礎地盤内に既設護岸や低水護岸、旧設計法で施工された既設の排水性矢板などが存在し、通常の法尻対策を実施する上での障害となることが明らかになったことから、堤防直下の液状化対策を実施することとした。
- ②堤防直下を対策する場合でも両側の支障物により十分な対策範囲を確保することができないことから、改良幅は「計画堤防天端幅+ $\alpha$ 」とし、 $\alpha$ は荷重分散角の考え方を準用して計画堤防天端高から地下水面まで45度の範囲とした。
- ③改良範囲は、FL値1.0未満の液状化層を対象に、FL値が1.0以上となる深度までとした。
- ④堤体直下の耐震対策は、総合的に最も優位となる静的締固め砂杭工法を基本とした。ただし、近辺にエレベータや橋梁、樋管などが存在する場合には、低変位スラリー系機械攪拌工法を採用することにした。
- ⑤静的締固め砂杭工法による目標改良率は、FL値1.1以上となるように設定した。なお、堤体直下の液状化層を直接改良するので、円弧すべり安全率による照査や、改良体の外的安定・内的安定による照査は行わなかった。
- ⑥低変位スラリー系機械攪拌工法における目標改良強度は、改良体自体が液状化しないように100kN/m<sup>2</sup>とした。

